



小田原市長

加藤けんいち



やっぱりカトケン！

暑い日が続きますが、皆さん元気にお過ごしでしょうか？再び小田原市長の任に着かせて頂いてから、早くも1年と3ヶ月が経過しました。人口減少、少子高齢化、人材不足、社会インフラの老朽化など、私たちを取り巻く状況が一層難しさを増しています。地域や実践現場を訪ね、各課題の現状、市民の皆さんの生活や活動の様子、市職員の状況、財政の現状などを丹念に確認してきました。コロナ禍の影響が残っていることに加え、社会保障制度の先行きの不安、担い手不足、物価高、経済格差、食料自給の危機などが現実に。目の前の課題を対症療法的にしのぐだけでなく、より本質的な解決策を目指さねばならないとの思いを強くしています。

「誰もが笑顔で暮らせる、愛すべきふるさと 小田原」を将来都市像と定め、令和8年度よりスタートする第1期実行計画に、マニフェストに掲げた具体的な取り組みを盛り込んでいく予定です。「誠実、信頼、そして希望」の旗印のもと、市民の皆さんと共に歩みを進めていきます。

2025年8月 加藤 売一

誰もが笑顔で暮らせる、愛すべきふるさと 小田原へ

小田原の「自然」「人」「まち」「産業」「文化」の5つの力をまちづくりの資源とし
豊かさが循環する持続可能な地域社会「地域自給圏」を創造します。

再就1年 やってきたこと

主なものをピックアップ

見直し・確認・再始動。2年目はさらにフル稼働で

☑ 就任前から継続する事業および施策の見直し（継続と廃止） ☑ 2025年度予算・第7次小田原市総合計画を策定

市役所組織の再編成と職員配置の見直し



事業の見直しや強化のために、組織改編、職員配置の過不足は正、必要な人員の配置を進めています。

「地域担当職員」を増員し地域コミュニティを応援



高齢化や担い手不足などの課題を抱える地域コミュニティ（自治会や子どもも会など）の活動を、市職員の増員でサポート。

「農と食」を学ぶ育ちの場づくり



子どもたちが農作物を育てる農園「エディブル・スクールヤード（食育菜園）」を各小学校区に開設すべく準備中。

小田原の未来を 市民と共に考える場づくり



環境・教育・福祉・まちづくりなど各分野の第一人者による講演と公開対談を連続開催中。（「持続可能な地域社会のデザイン」）

介護現場を支える人材を地域から



(株)プラスロボと協定を締結、人材不足に悩む介護の現場を専門知識や技術がなくてもサポートできる、有償ボランティア「スケッター」の導入を開始しました。

学校給食における 自校式炊飯の拡大



地元産のお米を炊きたてで食べられるよう、炊飯器を導入した小学校を順次増やしています。

小田原市立病院建替事業（継続）



2026年5月の開院に向け工事は順調に進行。県西地域の高度急性期医療を支える拠点施設として、新名称は「おだわら総合医療センター」に決定。

全国初! 電力地産地消の プラットフォーム構築へ



市内の発電者
・事業所・住宅
・公共施設
・ソーラーシェア
・野立て・カーポートなど
市内の電力需要家
・商業施設
・公共施設など

発電事業者
エネルギー
マネジメント
事業者
小売電気
事業者

市内の住宅や事業所などで発電した再生可能エネルギーを集め、市内の需要家に届ける、全国初の仕組み作りが進行中。地域経済の好循環も生み出します。

台風災害への迅速な対応



2024年台風10号での甚大な被害に対し、国・県・関係団体と連携しながら、道路や河川などの災害復旧と被害者への経済的支援を直ちに実施。

「伊豆湘南道路」の建設促進活動



日常はもちろん災害時に役立つ道路構想の実現に尽力しています。
(小田原から真鶴・湯河原・熱海を経て
函南・三島へと繋がる構想)

小田原市総合計画 基本構想を策定



持続可能な地域社会を創造、いのちを支える「地域自給圏」を目指します。

最新情報はコチラ/
市長の日記

市長の日記 小田原



これからやっていくことについて